

わが国成人における飲酒問題を有する者の推計割合および推計人口

調査の概要

1) 調査対象者

層化2段無作為抽出法により全国363地点より選ばれた20歳以上の男女8,000名。

2) 調査票

A4版で16ページからなる面接調査票と17ページからなる自記式調査票を使用して行われた。

調査の内容は、飲酒パターン、依存症を含むアルコール関連問題、心の健康状態、喫煙とニコチン依存、インターネット使用と依存、買い物行動とその依存などである。

3) 調査方法

調査員が対象者の自宅に訪問し、面接調査を行った。自記式調査については対象者に記入を依頼し、後で回収した。

調査期間は2018年2月～3月。

4) 飲酒問題の同定

世界保健機関（WHO）が策定した「アルコール使用障害同定テスト, Alcohol Use Disorder Identification Test, AUDIT」の日本語版を使用した^{1,2)}。

このAUDIT調査票は、自記式調査票の中に組み込まれていた。

5) 回答率

4,628名から回答が得られ、回答率は57.9%であった。

6) AUDITの結果および推計人口

表1を参照。

・研究名

AMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)「アルコール依存症の実態把握、地域連携による早期介入・回復プログラム開発に関する研究(研究代表者樋口進)2016-2018」

・解析

尾崎米厚、金城文(鳥取大学医学部社会医学講座環境予防医学分野)

文献

1) Saunders JB et al. Addiction 1993; 88: 791-804.

2) 廣尚典ほか. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 1996; 31: 437-450.

表1. AUDITの結果および推計人口

	男性				女性				合計			
	年齢調整率	95%信頼区間	推計数 (単位: 100万人)	推計数 95%信頼区間 (単位: 100万人)	年齢調整率	95%信頼区間	推計数 (単位: 100万人)	推計数 95%信頼区間	年齢調整率	95%信頼区間	推計数 (単位: 100万人)	推計数 95%信頼区間
AUDIT8点以上	21.4%	19.6-23.2%	10.84	9.94-11.73	4.5%	3.6-5.3%	2.43	1.99-2.87	12.6%	11.7-13.6%	13.27	12.27-14.26
AUDIT12点以上	10.0%	8.7-11.3%	5.06	4.40-5.71	1.5%	1.0-2.1%	0.85	0.57-1.12	5.6%	4.9-6.3%	5.90	5.19-6.61
AUDIT15点以上	5.2%	4.3-6.2%	2.63	2.15-3.12	0.7%	0.4-1.1%	0.40	0.21-0.58	2.9%	2.4-3.4%	3.03	2.51-3.55
AUDIT20点以上	1.3%	0.9-1.8%	0.68	0.43-0.93	0.2%	0.0-0.4%	0.13	0.01-0.24	0.8%	0.5-1.0%	0.81	0.53-1.08
ICD-10診断基準該当 (生涯経験)	0.8%	0.5-1.2%	0.41	0.23-0.59	0.2%	0.0-0.4%	0.13	0.02-0.23	0.5%	0.3-0.7%	0.54	0.33-0.75
ICD-10診断基準該当 (現在)	0.4%	0.2-0.7%	0.22	0.08-0.35	0.1%	0.0-0.2%	0.04	0.00-0.09	0.2%	0.1-0.4%	0.25	0.11-0.40

年齢調整の基準人口は、2017年10月1日の推計人口を使用した。